第6号様式(第12条関係)

2023年　　3月　　6日

新　宿　区　長　　宛て

団　体　名　特定非営利活動法人 日本吃音協会
所　在　地　東京都新宿区住吉町１－１８ TVB曙橋ビル 5階
（フリガナ）フジモト　コウジ
代表者氏名　藤本　浩士　印

新宿区協働推進基金助成金事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第12条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　収支計算額　　収入　　528,537　円
　　（内助成金）　　352,000　円

　　支出　　528,537　円

2　助成事業

事　業　名	吃音に理解のある地域共生社会
実施の日時又は期間	令和4年8月から令和5年2月
対象者の範囲及び人数	新宿区内外にお住まいの吃音の当事者、吃音の子の保護者や吃音の理解を深めたい新宿区民
事　業　内　容	吃音症の理解や啓発、吃音の当事者や当事者のご家族のケアを目的とし、吃音ドクター菊池良和医師の講演会や吃音の専門家チームによる相談会・交流会を実施した。 各イベント前に告知活動や事業運営の会議を行った。

具体的な活動状況	【運営会議の開催実績】 ■対面での運営会議 11/22(火曜日)　:対面イベントの会場での運営デモンストレーションの実施 ■オンラインでの運営会議 ①10/15(土曜日):12/3(土曜日)のイベントの運営会議 ②10/18(火曜日):広報・集客のためのデザイン制作物の検討会議 ③11/4(金曜日):12/3(土曜日)のイベントの運営会議 ④1/16(月曜日):1/21(土曜日)のイベントの運営会議 ⑤2/1(水曜日):2/18(土曜日)のイベントの運営会議 ⑥2/18(土曜日)計3回のイベントの振り返り 【事業実績】 吃音の当事者や吃音関係者、吃音の理解を深めたい区民を対象とした吃音症の専門家による講演会・相談・交流会を実施 ■　対面での講演会・相談会・交流会(1回) 令和4年12月3日(土曜日) 10:00～12:30 参加者人数:38名（内新宿区民5名） ※吃音の当事者以外の3名を含む ■　オンラインでの講演会・相談会・交流会(2回) ①令和5年1月21日(土曜日) 13:00～15:00 参加者人数:8名（内新宿区民2名） ②令和5年2月18日(土曜日) 13:00～15:00 参加者人数:7名（内新宿区民1名）

事　業　の　成　果	対面での講演会について、定員の40名を上回る50名からの応募があり、当日の参加者は38名であった。オンラインイベントについては、1月21日は8名、2月18日は7名の参加があった。 また、新宿区内の掲示板へのイベントポスターの掲載や新宿ソダチの取材を通して、新宿区内での吃音症への理解促進を図った。 アンケート結果からは、対面イベントとオンラインイベントともに、講演会、相談会、交流会の項目において、83％以上の参加者が満足と回答し、講演会と交流会にいたっては90%以上の参加者が満足と回答した。現場での参加者の声からも本イベントの満足度の高さが示された。 計3回のイベントを実施することにより、吃音臨床で有名な九州大学病院 菊池医師、慶應義塾大学病院 富里医師との連携強化に繋がっただけではなく、3名の参加者の当団体へのボランティア登録及び5名の参加者の会員登録につなげることができた。 ■イベント参加者の声(一部抜粋) 〇第一部 講演会 ・吃音当事者の病院の先生が教えてくれるので信頼できた。 ・息子が今後の学校生活を育む上での知恵を知ることができた。 ・吃音を気にせず話をしている菊池先生の姿を見て勇気をもらいました。 〇第二部 相談会 ・就活について親身になって相談を聞いて頂き大変心強かったです。 ・吃音で悩んでいたことが減り、勇気が湧いた。 〇第三部 交流会 ・環境を変えられるのは、今の大人なので自分たちが変えていかないとと改めて感じました。 ・吃音当事者から様々な考えを直接聞くことができ、とても参考になりました。

収支決算書

	費　目		予　算　額	内　訳
支出区分	事業費	①使用料及び賃借料	24,750 円	貸会議室（1回使用：24,750円）
		②消耗品及び印刷費	13,727 円	ポスター印刷(A1片面カラー・光沢紙 3部)：5,519円 ポスター印刷(A4片面カラー・マット紙 100部)：1,813円 チラシ印刷(A4片面カラー・光沢紙 2000部)：5,322円 プログラム印刷(A4片面カラー・光沢紙紙 80部)：1,073円
		③委託費	150,000 円	チラシ・ポスターデザイン費用 計4枚：80,000円 チラシ・ポスターディレクション費用：30,000円 チラシ・ポスター修正費用：5,000円 イベントプログラム修正費用：5,000円 イベントの集客支援：30,000円
		④講師謝礼	158,560 円	講師①: 30,000円×1日=30,000円 講師②: 30,000円×3日=90,000円 講師交通費(飛行機 往復)：38,560円
		⑤その他謝礼	180,000 円	ボランティア計10名 3,000×6日×10人＝180,000円(交通費込)
		⑥交通費	1,500 円	12月3日イベントの荷物運搬のためタクシー利用 （日本吃音協会事務所付近⇔四谷三丁目）
		⑦保険料	0 円	
		⑧その他諸経費	0 円	
		⑨新型コロナウイルス感染症対策経費	0 円	※上限20,000円
		⑩人件費	0 円	※下記「事業費」の25%以内　(176,179)
	事業費（①から⑩の合計）		528,537 円	
	⑪ファンドレイジングに関する経費		0 円	※事業費の5%以内　(26,427)
	⑫助成対象経費（事業費＋⑪）		528,537 円	
	⑬助成対象外経費		0 円	
	事 業 総 額		**528,537 円**	

	内　容	予　算　額	積 算 根 拠（内 訳）			
収入区分	㋐　事業収入（参加料、資料代等）	0 円				
	㋑　寄附金	0 円				
	㋒　補助金収入	0 円	予算時		返還額	0
	㋓　協働推進基金助成金	352,000 円	交付額	455,000	返還額	103,000
	㋔　団体負担金	176,537 円				
	収 入 総 額	**528,537 円**				

返　還　金	**103,000 円**	

実施要領　第５号様式

自己評価表

１　各項目に評価点を付し、「評価の理由」欄には、判断した理由や実績、課題等を記載してください。

【評価点】４:計画書以上　３:概ね計画書どおり　２:一部計画書どおり　１:ほぼできなかった

評価のポイント	評価点	評価の理由
地域課題や社会的課題に対して成果や効果があったか。	3	新宿区内での吃音の啓発や障害理解、相談窓口の拡充の目標はアンケート結果により概ね達成できたと評価する。
事業を通じて、多くの区民の社会貢献活動の啓発に役立つものとなったか。	3	イベント告知のチラシやポスター、新宿ソダチからの取材を通して、区内での吃音症の啓発に貢献し、区民の社会貢献活動の啓発に役立てた。
事業計画及びスケジュールに沿って事業を実施できたか。	3	イベント内容の一部変更があり、事業計画・実施スケジュールが変更になったが、イベントの準備から実施まで概ね円滑に進んだと評価する。
実施にあたり、必要な人員や安全等の確保がなされたか。	4	計画通りに実施することができた。コロナ感染症ウィルス拡大の対策として、当日参加者の出欠名簿・連絡簿を作成し、感染者が出た時に速やかに他の参加者に連絡ができるような体制を整えた。
経費見積りは適正だったか。資金確保に努めたか。	2	事業計画・実施スケジュールが変更になったが、経費を再見積もりし、対応することができた。
団体の先駆性や専門性を活かすことができたか。	4	当団体が有する人材ネットワークを活かし、吃音臨床の第一人物である九州大学病院菊池良和先生の講演会を実施できた。また、相談会や交流会も当団体の専門性を活かすことができた。
継続性や発展性が期待できるものとなったか。	3	本事業をきっかけに九州大学病院の菊池良和医師や慶應義塾大学病院の富里周太医師との連携体制が確立できた。 本イベントの参加者がその後、当団体の会員やボランティアとなり、社会貢献活動に参加している。

（裏面もご記入ください）

２　事業全体を振り返って気づいたこと等をお書きください。

事業を実施したことで見えてきた良かったこと、また課題や改善策。	本事業のイベントの参加者から「本当に参加して良かった」、「人生が変わった」、「勇気が湧いた」などポジティブな声が多数寄せられた。一方で、オンラインのイベントの参加者が定員に達しなかったことから、集客に向けての周知方法等が課題となった。
助成金を利用することで、団体や事業にとって有益となったこと。 （例：事業運営での気づきや工夫、解消された課題等）	助成金申請から事業運営を通して、団体設立後はじめて助成対象団体になったこと、助成金申請の知見を得ることができたこと、中規模イベントの企画・立案・運営までを行い中規模イベントの運営方法の知見を得ることができたことが有益と感じる。 今回のイベントを行う以前までは、吃音診療を行う医師チームとの連携が不十分であったが、今回のイベントを通じて、当事者団体と医師チームとの連携強化の足がかりとなった。

令和 4 年度新宿区協働推進基金助成金一般事業助成の実施事業でのアンケート結果

特定非営利活動法人 日本吃音協会

1. 日本吃音協会主催講演会 2022 in 新宿

2022 年 12 月 3 日(土曜日)に開催された日本吃音協会主催講演会 2022 in 新宿のアンケート結果、参加者からのフィードバック、傾向についてイベントごとに以下に示す。

1.1 第一部 吃音ドクター菊池良和先生による講演会のアンケート結果と傾向について

第一部イベント参加者の属性とフィードバックを表 1 に、結果を図 1 に示す。表で(当)は吃音の当事者を意味し、(非)は吃音の非当事者を意味する。

表 1 第一部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第一部イベントの参加者のフィードバック
40 代男性 (当)	吃音のメカニズムや特徴がとてもわかりやすかった
50 代女性 (非)	吃音にも出方があり、タイミングとバランスの影響が大きいとわかった
20 代女性 (当)	吃音の知らなかったことや知っていることについて改めて考える機会になった
30 代男性 (当)	吃音を気にせずに話している菊池先生の姿をみて勇気をもらいました
10 代男性 (当)	吃音の当事者の先生が教えてくれるので情報が信頼できた

極めて満足、満足と評価する参加者の割合が 100%を占めた。吃音の症状、二次障害から吃音診療、障害者手帳、吃音当事者の就労状況について包括的かつ端的な講演会であったため、吃音当事者であっても初めて耳にする内容が多かった。吃音の当事者であり、吃音診療の第一人者の医師の講演会であるため、情報の信頼性も高く、菊池医師の吃音の症状が出ながらの講演会に勇気をもらった吃音の当事者も多いと考える。極めて満足と回答した人が 13 名、満足と回答した人が 8 名であった。

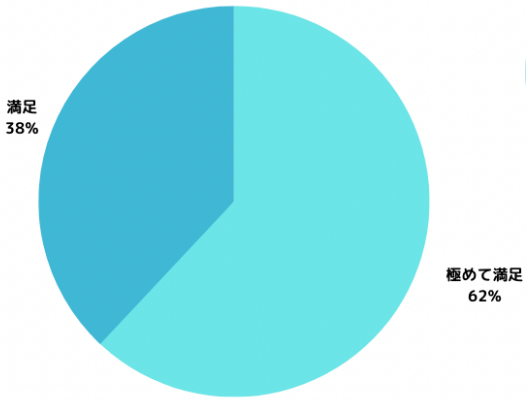

図 1 第一部のアンケート結果 n=21

1.2 第二部 吃音なんでも相談会のアンケート結果と傾向について

第二部イベント参加者の属性とフィードバックを表 2 に、結果を図 2 に示す。

表 2 第二部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第二部イベントの参加者のフィードバック
20 代男性 (当)	就活について親身になって相談できて心強かった
30 代女性 (非)	個別相談は、順次解散できるようにプログラムの最後の方が良いと思う
20 代男性 (当)	菊池先生に話を聞いてもらえた
40 代男性 (非)	メンタル面での吃音の付き合い方について知れてよかった
10 代男性 (当)	吃音の悩みが減った。勇気が湧いた

極めて満足、満足と評価する参加者の割合が 90%を占めた。一方でどちらとも言えない、やや不満と回答した参加者の割合が 10%を占めた。吃音なんでも相談会は菊池良和医師、桐貴清羽氏、当団体藤本理事長、当団体就活支援キャリアアドバイザーの 4 名の相談員が吃音の当事者の悩みに寄り添う趣旨のイベントである。第二部イベントの評価は、イベント自体の評価よりも、相談員への不満やイベント進行の手際への評価の可能性の方が高いと考えられる。実際に、相談員によって知識の偏りや話の聞き方など異なり、相談員に対して不満を持つ当事者も少なからずいた。個別ブースを設けた相談会を開催する場合は、どの相談員がどの悩み相談に対応しているのかを事前にアナウンスし、相談員と相談者の最適なマッチングが必須である。また、相談員の選出基準を再度見直す必要があると痛感した。極めて満足と回答した人が 7 名、満足と回答した人が 12 名、どちらともいえないと回答した人が 1 名、やや不満と回答した人が 1 名であった。

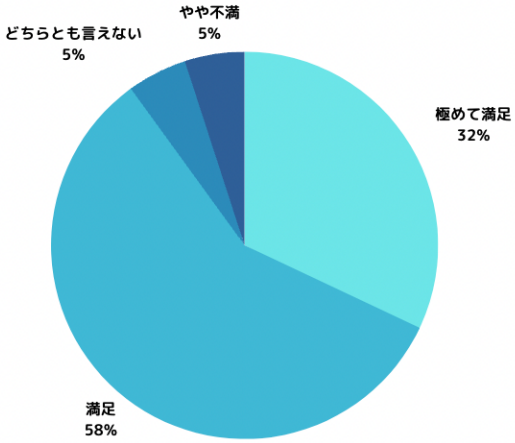

図 2 第二部のアンケート結果 n=21

1.3 第三部少人数グループでの座談交流会のアンケート結果と傾向について

第三部イベント参加者の属性とフィードバックを表 3 に、結果を図 3 に示す。

表 3 第三部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第三部イベントの参加者のフィードバック
30 代男性 (当)	藤本さんの子供への支援や吃音者に必要な成功体験の話が有意義だった
50 代女性 (当)	菊池先生と藤本さんの話は頷ける話が多かったです
20 代男性 (当)	貴重なお話が聞けた
40 代男性 (非)	吃音への捉え方が整理できた。

60 代男性 (当)	菊池先生の回答がとても的確だった	

極めて満足と回答した参加者が55%、満足と回答した参加者が45%を占め、当講演会イベントの中で最も参加者の評価が高いイベントなった。吃音当事者の悩みの一つとして、「吃音を理解してくれる人と話してみたい」がある。吃音に理解のある環境での少人数での交流会は吃音当事者に発話へのプレッシャーを与えることなく、当事者が自由に話すことができる。吃音が出る恐怖へのプレッシャーを感じることなく、自由に話すことができる場は、吃音当事者にとって社会参加の契機となる。本イベント以外にも対面・オンラインでも交流会のイベントを開催しているが、今回の第三部イベントの評価より、改めて吃音があっても吃音の症状に恐怖することなく自由に話せる場の必要性を再認識した。極めて満足と回答した人が12名、満足と回答した人が9名であった。

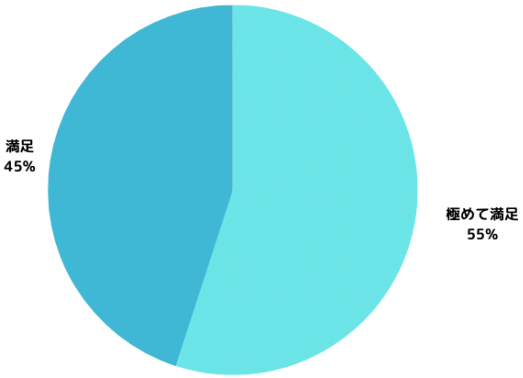

図3 第三部のアンケート結果 n=21

2. オンライン座談相談会

2023年1月21日(土曜日)、2月18日(土曜部)に開催されたオンライン座談相談会のアンケート結果、参加者からのフィードバック、傾向についてイベント毎に以下に示す。アンケート回答者が少ないためアンケート結果は1月21日、2月28日をまとめて集計している。

2.1 第一部 吃音ドクター菊池良和先生の収録講演会配信のアンケート結果と傾向について

第一部イベント参加者の属性とフィードバックを表4に、結果を図4 に示す。

表4 第一部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第一部イベントの参加者のフィードバック
20 代男性 (当)	菊池先生の話がわかりやすかった
20 代女性 (当)	吃音について深く知ることができた
40 代女性 (非)	さまざまな情報をいただけたのでよかった

極めて満足と回答した参加者が16.7%、満足と回答した参加者が83.3%を占めた。吃音

ドクター菊池良和先生の収録講演会の配信では 2022 年 12 月 3 日に開催された日本吃音協会主催講演会 2022 in 新宿 第一部イベントの収録動画を配信した。対面式のイベントよりも極めて満足と回答する参加者の割合は少ないが、講演動画の情報量の多さや情報の信頼性から高評価を得た。今回のオンラインイベントでは菊池医師の日程の都合から、イベントへの参加が難しく、12 月 3 日の収録動画の配信となってしまったが、オンラインでの講演会なども実施できるように検討していきたい。極めて満足と回答した人が 1 名、満足と回答した人が 7 名であった。

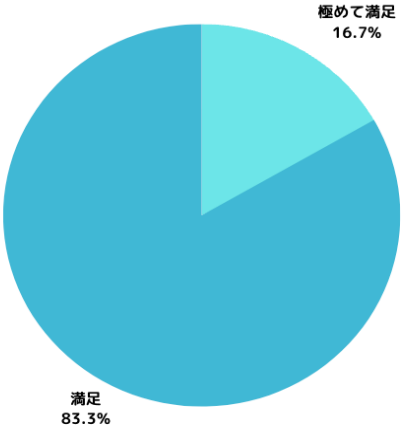

図 4 第一部のアンケート結果 n=8

2.2 第二部 吃音なんでも相談会のアンケート結果と傾向について

第二部イベント参加者の属性とフィードバックを表 5 に、結果を図 5 に示す。

表 5 第二部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第一部イベントの参加者のフィードバック
20 代男性 (当)	吃音をハンデではなく武器だと捉えることができました。
40 代女性 (非)	たくさんのアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

極めて満足、満足と評価する参加者の割合が 100%を占めた。12 月 3 日の吃音なんでも相談会と比較して満足度が高い第二部イベントとなった。12 月 3 日の対面イベントの吃音なんでも相談会での反省を踏まえ、相談員の選定を厳粛に行った。また、オンラインでのイベントは zoom のブレイクアウトルームを活用し、オンライン上でもスムーズに個別相談の案内ができたのが高評価につながったと推察される。極めて満足と回答した人が 5 名、満足と回答した人が 3 名であった。

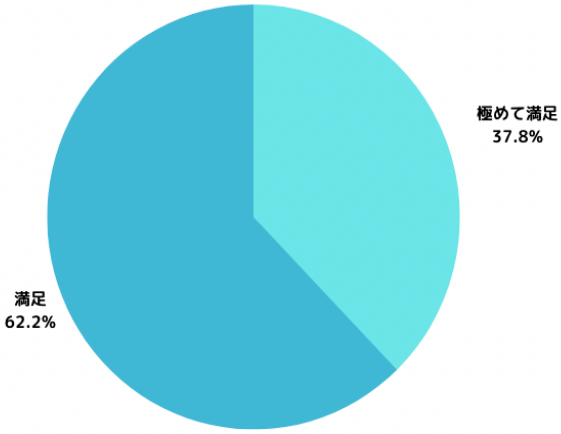

図 5 第二部のアンケート結果 n=8

2.3 第三部 少人数グループでの座談交流会のアンケート結果と傾向について

第三部イベント参加者の属性とフィードバックを表 6 に、結果を図 6 に示す。

表 6 第二部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第一部イベントの参加者のフィードバック
20 代女性 (当)	吃音の方との交流ができて、悩みを話せることができたので良かったです。
10 代女性 (当)	当事者の方から様々な意見を聞くことができ、少し気持ちが楽になりました。

33.3%の参加者が極めて満足と回答し、66.7%の参加者が満足と回答した。極めて満足と回答する参加者の割合は対面イベントのよりも減少したが、概ね高評価を得た。12 月 3 日のイベントでは満足よりも極めて満足と回答した参加者の割合の方が多いが、オンラインイベントではその逆となった。オンラインでの交流会は対面での交流会と比べ、表情や身体言語が読み取りにくく、対話での理解や共感が低下し、コミュニケーションの質が下がる傾向にある。新型コロナウィルスの影響で、対面でのイベントへの自粛が余儀なくされ、オンライン全盛期となっている今、当団体では今後行う対面でのイベントの割合を増やし、吃音当事者の社会参加を後押しする活動を推し進める必要があると考える。極めて満足と回答した人が 3 名。満足と回答した人が 5 名であった。

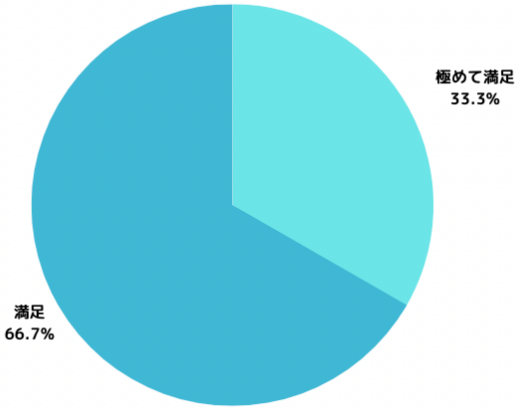

図 6 第三部のアンケート結果 n=8